
魔法少女リリカルなのは～心の弱い転生者

病み眼鏡（闇）

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

魔法少女リリカルなのは〜心の弱い転生者

【Nコード】

N8430K

【作者名】

病み眼鏡（闇）

【あらすじ】

脆弱な心を持つ青年がトラックに轢かれて死んだ。そして目が覚めると彼は人造魔導師として転生していた。と、ここまで聞けばテンプレ的展開である。だが何かがおかしい。これは、暗く、少々病んだ青年がリリカルな世界の人物達と関わり、成長していく物語……だったらしいな。

プロローグ：弱き青年の苦しみ（前書き）

どうも、病み眼鏡（闇）です。

この小説を読むに当たって注意事項があります。

まず、ペンネームから分かる通り、作者は病んでいます。

この小説は、そんな病んだ心の悪意と鬱と病みによって書かれました。

なので読んでいて不快になる可能性があります。

病んだ小説？　そういうの、嫌いじゃないぜ、と言う方は読んで下さるとありがたいです。

プロローグ：弱き青年の苦しみ

——鬱だ

いつからだっただろうか？

この世のほとんどが憂鬱に感じるようになったのは

静かな場所では孤独感と焦燥感を覚え。

騒がしい場所では自分自身と世界が隔離されたかのような拒絶感を感じる。

世界のどこに居ても居心地が悪い。

——だからだろうか？

俺が二次元の世界に走ったのはある意味当然の事だった。

やはりアニメは良い。

辛く、苦しい世界から擬似的、一時的とはいえ抜け出せる。

こういう考え方が危険思想なのは分かるがそれでもしなければ現実世界に心が押しつぶされてしまう。

現代のぬるま湯……もとい、ゆとりにとっぷり浸かった俺の心は脆弱なものなのだ。

アニメや漫画の主人公みたいな格好良さや強さを求められては困る。

ああっ！　くそっ！　アニメの世界に行ければなあ……

そんな末期状態な事を考えて、俺は今日もアニメに没頭する。

『全力全開！　スターライト——』

テレビの中で白い少女が自らの必殺の一撃を放とうとしている。

『——ブレイカー————っ！！！！』

次の瞬間、画面一杯に桜色の光が満たされた——

「高町なのは……か……」

魔法……もとい魔砲を放つ彼女を見て一人呟く。

え？　もといの前後が逆？　良いんだよ、彼女の場合はこれでっ！

彼女は強い、実力だけじゃなくて心が……だ。

どんな逆境の中でも折れずに突き進める。

どんな苦境に立たされても自分の信じた道を貫き通せる。

「俺にもこれだけの強さがあれば何か変わったかな……」

有り得ないと分かってもつい呟いてしまう。

ああ、駄目だまた鬱になってきた……

つくづく脆弱な心だ。

アニメのキャラクターにすら劣等感を持つなんて……

あ、いや…この場合は憧れか？

まあ、どちらにせよ俺ではこうはなれないとか考えた時点で脆弱なのは変わらないか。

「はあゝアニメの世界に行きたい」

鬱だ、ふて寝でもしよう。

テレビを消し、ベッドで横になる。

胸の内にあるのは億劫になる程暗く…黒い感情。

それを抱いたまま、俺は眠りについた。

＊

この辺りはやや田舎なので街灯があまり無く、さらに今日は新月なのでかなり暗い。

車もあまり通らないので静かだ。

こういう雰囲気の時、大抵の人は【怖い】もしくは【落ち着く】などの感想を持つのだろう。

だが、俺の場合は違う。

こういう時、俺は途方も無い孤独感に苛まれる。

暗く、静かな場所では五感が薄くなり、つい色々と余計な事を考えてしまう。

俺には友人がいない。

いや、昔はいたと思うがほとんど疎遠状態だ。

暗い性格が災いし、周りに上手く馴染めず、新しい友人を作る事も叶わなかった。

この静寂な闇の中では余計に独りだと言う事を強く自覚してしまう。

ああ、駄目だまた余計な事を考えてしまった。

早く帰って買った漫画を読もう。

そうすれば、その内この嫌な気分も忘れられる。

横断歩道の信号が青く点灯したのを確認して足早に歩く。

——その時、クラクションの音がうるさいくらいに響いた。

「え？」

——グシャ

肉が潰れる独特の水音と共に真っ赤な鮮血が飛び散った。

彼にとって不幸だった事が二つある。

一つはこの真っ暗な中、目立たない黒いコートを着た事。

これによってトラックの運転手が彼を認識するまでに時間がかかってしまった事。

故にブレーキが間に合わず、彼は轢かれた。

そして二つ目の不幸は——

「ガ……ぐあ……うグ……」

既に完全な致命傷であるにも関わらず、即死出来ない事だった。

腕はグチャグチャに潰れ、足はおかしな方向に曲がり、はらわた腑からは内臓がはみ出している。

……にも関わらず

彼は即死出来なかった。

体のあちこちから、普段は絶対に想像出来ないほどの激痛に苛まれる。

それは…まるで火炙りにされたかのようで…体に焼け付くような苦痛を強いた。

「ぐ…」

彼は体の中心に熱い、熱い、熱を感じた。

それはどんどんと熱を増し、上へ上へと登ってくる。

「ガほっ…ゴホッ！　ゴホッ…」

苦しい鳴咽を漏らしながら、それは血と共に排出される。

だが、彼の熱は冷める事は無く。

「ゴホッ！」

——何度も

「がふっ…」

——何度も

「こふっ……ごぷっ…かふっ…」

血を吐き続けた。

何で……何でこんなに苦しまなきゃならないんだ…

あまりの苦しさに、涙を滲ませながら自分の不幸を呪った。

どうせ死ぬなら楽に死なせてくれても良いじゃないか……

そこに、助かりたいという願望は既に無かった。

あるのはただ、ただ楽になりたいと言う感情だけ。

俺が何をしたって言うんだ……

そして数回血を吐き出すと、ようやく彼の意識は遠のいていった。

プロローグ：弱き青年の苦しみ（後書き）

ここまで読んで下さってありがとうございます。

いかがでしたか？

次回はいよいよ転生する予定です。

ご意見・ご感想は常にお待ちしていますので送って頂けると嬉しい
限ります。

次回『狂気の科学者の悪意』に、ドライブイグニッション

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8430k/>

魔法少女リリカルなのは～心の弱い転生者

2010年10月11日00時23分発行